コード No. 10369

Anti-Human
TEK/Tie-2 (2A1) Mouse IgG MoAb

容量 ： 100 µg

はじめに ： TEK は Tie-2 (Tyrosine kinase with Ig-like loops and Epidermal growth factor homology domains-2), CD202b としても知られる 145kDa の受容体型チロシンキナーゼで、内皮細胞や造血細胞で発現されます。その構造は 2 つの IgG 様ループを含む独特な細胞外領域を持ち、この 2 つのループは 3 つの EGF (epidermal growth factor)様繰り返し配列によって分断されており、3 つのⅢ型フィブロネクチン様反復へと続き、細胞内には 2 つのチロシンキナーゼドメインを有します。Angiopoietin1, 4 はリガンドとしてこの受容体のリン酸化を誘導しますが、Angiopoietin2, 3 はアンタゴニストとして働くことが報告されています。これらによる情報伝達経路は、血管内皮細胞への細胞接着を制御しており、腫瘍の血管新生や成熟血管において内皮細胞の生存、統合性の維持に重要な役割を果たしていると考えられています。
本モノクローナル抗体は、ウエスタン ブロッティング、免疫沈降試験により、TEK/Tie-2 を認識し、TEK/Tie-2 発現細胞に対する FACS 解析も可能です。また本抗体の添加によって、リガンド結合に依存的な TEK/Tie-2 のリン酸化が誘導されないことも確認されており、中和抗体として使用して頂けます。

免疫抗原 ： Human TEK/Tie-2 の細胞外領域のリコンビナントタンパク質

起源 ： マウス×マウス ハイブリドーマ（腹水）
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 ： 2A1 サブクラス ： IgG_1

精製方法 ： Protein A による精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 100 µg/mL となります）

保存方法及び安定性 ： 2～8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 ： 免疫細胞染色 5 µg/mL にて使用可能
： ウエスタン･ブロッティング 1～5 µg/mL にて使用可能
： 免疫沈降法 3～5 µg/test にて使用可能
： FACS 解析 1～5 µg (1×10^5 Cells あたり)にて使用可能
： 中和活性あり(TEK/Tie-2 発現細胞株において、100 ng/mL のリガンド結合に依存的な TEK/Tie-2 のリン酸化を指標とした時、10 µg/mL の抗体添加により中和活性を確認)
＊ 中和試験に用いる場合は、別途、添加物を含まない無菌分注製品をご用命ください。

特異性 ： HUVEC を用いたウエスタン･ブロッティングで特異性を確認

株式会社 免疫生物研究所
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp